

※本資料の内容は、一部変更となる可能性があります
※本事業の予算成立は、2024年3月前後を予定しています。本事業の実施に伴う予算が正式に確保できない場合は、実施できない可能性があることをご了承ください。

創業支援等事業計画機能強化事業

令和6年度 起業家教育プログラム実施支援 説明資料



2023年10月
中小機構 創業・ベンチャー支援部



01. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 概要

提供内容	目的	対象	実施予定	実施期間
<ul style="list-style-type: none">・起業家教育カリキュラム(…*)導入のためのサポート・他校との接点、生徒のコミュニティ、社会との接点の提供	<ul style="list-style-type: none">・起業家に必要とされるマインドと資質・能力を有する人材の育成・起業家教育に取り組む高等学校等及び自治体・創業支援機関等の拡大	<p>起業家教育標準カリキュラムを導入し、 起業家教育に取り組む 高等学校等(…*)</p>	<p>20 校 (予定)</p>	<p>令和6年 4月 ▼ 令和7年 2月 (予定)</p>

*中小企業庁の示す起業家教育標準カリキュラム
(<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kyouiku/download/curriculum01.pdf>)

*高等学校等:学校教育法第一条で規定する、高等学校、高等専門学校(1~3年生)、中等教育学校(後期中等教育段階)、特別支援学校(高等部)

これまでに起業家教育の実績があるが、標準カリキュラムを参考にカリキュラムブラッシュアップに取り組む高等学校等の申込も可能です。



02. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 支援内容

■ 授業実施サポート(教員・学生の方からの相談対応)

実施支援校の担当教員・参加生徒が簡単に相談できる体制を確保し、授業前後でのフォローを提供するほか、授業カリキュラムの趣旨に沿った起業家・講師の紹介・マッチングを提供します。



各実施支援校のニーズに沿った
授業カリキュラムの作成を支援します



オンラインツールを活用し、授業に関する
教員・学生からの相談に迅速に回答します



外部講師やインタビュー先企業について
紹介・マッチングを行います



02. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 支援内容

■ 社会との接点づくり・授業成果の発表機会の提供

ビジネスプラン発表の機会を提供・起業家との接点づくり・インキュベーション施設等との連携をサポートし、授業カリキュラム実施後の教育効果の維持・発展を支援します。



授業カリキュラムの成果発表会
(プレゼン発表会などを想定)を開催



定期的に、起業家と学生が直接対話する機会を提供



インキュベーション施設等と連携し、社会との接点を提供



02. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 支援内容

■ その他

授業カリキュラムの好事例としての広報などのサポートにより、起業家教育・キャリア教育への取り組みを広く周知するサポートを提供いたします。



インターネット等での好事例としての広報支援



中小機構で作成する起業家教育事例集への掲載



その他 起業家教育についてのサポート



03. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ ご協力いただく内容

■ 参加校の皆様に取り組んでいただくこと

教員の方

- 年間の授業カリキュラムのうち(原則)10~32時間程度を活用し、起業家教育を実施
- 参加校同士のコミュニティ参加、意見交換の場、成果発表の場への参加
- カリキュラムに対するご意見
- 中小機構が依頼するアンケート調査への回答

学生の方

- カリキュラムを活用した授業への参加
- 参加校同士のコミュニティ参加、意見交換の場、成果発表の場への参加
- 中小機構が依頼するアンケート調査への回答



04. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶ 実施例

■ 授業実施(例)

実施校: 福井県立坂井高校

出典: ASCII STARTUP <対面講義で起業家マインドが急成長!?「起業家教育プログラム」参加校の特別授業に潜入> より抜粋
<https://ascii.jp/elem/000/004/114/4114743/?topnew=9>

対面講義で起業家マインドが急成長!? 「起業家教育プログラム」参加校の特別授業に潜入

2022.12.05 10:00 文●兄弟エレキ



角川アスキー総合研究所で起業家教育事業を担当しているベルマーカス麻里氏が登壇

アドバイスを受け、開発済みのツアー商品をブラッシュアップ

坂井高校では毎週水曜日の4、5、6限に開講する3年生が対象の課題研究において、女子8名の受講生徒に起業家教育を行っている(今回は4限は7名、5、6限は6名の生徒が受講)。4限に登壇したベルマーカス氏の授業は、起業とは? 起業家とは? といった基本的な話からスタート。実在する起業家の名前や具体的な事例を挙げ、対面での講義は初めてとなる生徒に向けて、起業の定義や意義をわかりやすく伝えた。

「日本の企業の平均寿命は40年前だと30年ぐらいだったんですね。それが3、4年前になると23.7年に。就職したら40年ぐらい働くことになるんですけど、企業の寿命が短くなると一社では終わらなくなる。転職したくなくても転職しなければいけない時代が来るかもしれないですね」

自分の力でキャリアを構築する必要性、就職したとしてもアグレッシブに動くことが重要であることを示された生徒たちは、起業家マインド、チャレンジ精神の大切さをより身近に感じ取っていた。

後半はより実践的な内容に移行。商品に対するターゲット(お客さん)と利用動機(お金を払ってくれる理由)について、「起業家教育の標準的カリキュラム」のワークシートを活用しながら、売れる商品の作り方やプロモーションの手段を駆け足で、かつ丁寧に講義した。

次ページへ続く



04. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶ 実施例

■ 授業実施(例)

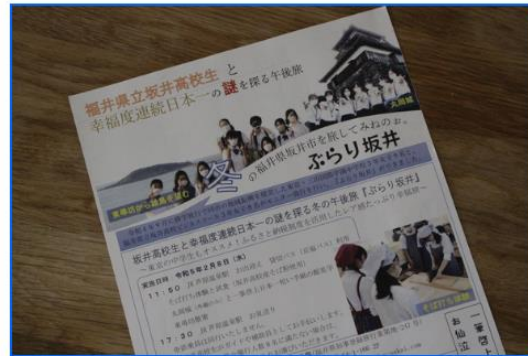
実施校:福井県立坂井高校

出典:ASCII STARTUP<対面講義で起業家マインドが急成長!?「起業家教育プログラム」参加校の特別授業に潜入>より抜粋
<https://ascii.jp/elem/000/004/114/4114743/?topnew=9>

坂井高校では首都圏の中学3年生と力を合わせ、ふるさと納税返礼品として、坂井市内を巡る旅行商品「坂井高校生と幸福度連続日本一の謎を探る冬の午後旅『ふらり坂井』のツアー」をすでに企画・開発。予約の受付も開始し、いかにPRするかが当面の課題となっている。

首都圏に住む50代後半から70歳、中学生の孫が考えた小旅行に関心を持つ保護者世代をターゲットに開発した商品だが、授業ではより詳細にターゲットを洗い直すことに。参加する人数は？2人なら夫婦が中心？夫婦だとすると決定権を握っているのはどっち？ターゲットを鮮明にすることで、より魅力ある商品を作ることができ、より効果的にPRすることができることが伝えられた。

「ツアーの参加者を募ることも大変ですが、申し込みがあったあとはもっと大変。ある意味、体験を売る商品なので、お客さんが求めていることを常に考えながら進めてほしい。価値観がずれないように。利用動機を明確に把握して、すばらしいツアーを作り上げてください」。開催に向けた準備や心構えのアドバイスをもって、50分の講義は終了した。



課題研究に参加している女子生徒8名が周囲の協力を得ながら企画・開発したツアーは、ふるさと納税の返礼品としてお得に利用できる、地元の高校生がガイドを務めるなど、魅力にあふれた商品となっている。ツアーの催行日は2023年2月8日で、坂井高校生のそば粉を使用したそば打ち体験などを予定

初体験のプレストでは前向きで新しいアイデアが続出

続く4、5限の講師は、企業の組織開発や採用のコンサルティング、イベントのサポートなどを行なっているフリーランス、田中彬士氏が担当。複数の参加者が自由にディスカッションを行い、アイデアを出していくブレインストーミング(以下、プレスト)を用いて授業を展開した。ビジネスの場では広く普及しているプレストだが、生徒たちにとっては初めての体験。質ではなく量を重視すること、どんな発言でも否定したり質問攻めをしないこと、話が脱線しないように気を付けることなど、プレストの基本的なルール説明から授業は始まった。

臆することなく発言できる場、温かな雰囲気作りがプレストの基本。田中氏がかつて所属していた会社で開発したプレストカードを使ったアイスブレイク(緊張をほぐすことでコミュニケーションを円滑にする手法)では、高校生ならではの柔軟な発想が続出した。サンプルを示した田中氏に対しても、生徒たちから自然と「いいね！」が飛び出すなど授業は一気に和やかな雰囲気に。

アイスブレイクではめくったカードから連想する夢の話や自由な発表も多かったが、次なるお題はハードルが少し上がって「坂井市の新しいイベントアイデア」について。突然突きつけられたとしたら悩みそうな難解なテーマだが、ここでもプレスト効果でさまざまなアイデアが湧き出した。ある生徒がカードから連想した「音符の上に座れるイベント！」に対し、別の生徒は「みんなで演奏できたらもっと楽しいかも！」と、飛んで来たボールを拾って広げるテクニックも自然な形で身に付けていた。

次ページへ続く

※あくまで参考であり、この内容に限定したものではありません



04. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 実施例

■ 授業実施(例)

実施校:福井県立坂井高校

出典:ASCII STARTUP<対面講義で起業家マインドが急成長!?「起業家教育プログラム」参加校の特別授業に潜入>より抜粋
<https://ascii.jp/elem/000/004/114/4114743/?topnew=9>

6限では3限で学んだターゲットの重要性を頭に入れながら、PR方法のアイデアを提案・発散していく。「ツアーのチラシを作ってみる?」「地元の小学生に描いてもらったら家族にも見てもらえるかも?」など、ターゲットもしっかり絞られてきている様子。

そして、最後に行われた発表では「エアドロップを使って、不特定多数の人にツアーのチラシを送り付ける!」というアイデアが、アイデアの発散から収束まで、限られた時間の中で驚くほどの成長を見せた生徒に対し、田中氏からも「いいね!」が飛び出した。

「プレストスイッチをカチッと入れて、これからもどんどんアイデアを生み出していってください。アイデアが豊富だったら、悩まなくて済みますよ。一つがダメだったとしても、じゃあ次って感じで前に進めるので。最初は検討外れだったとしても繰り返すことで、正解に近づいていく。意見を出すことで、テーマや課題が自分ごとのように感じられてくる。試行錯誤を繰り返しながら徹底的に考えてください。意見が言い合えるこのメンバーなら、きっといいツアーにできるはず!」と、田中氏の心強い言葉で3限に及んだ特別授業は幕を下ろした。

教室の後方から授業を見守っていた顧問の伊東輝晃教諭も、「いつもはこちらから決めないといけないことを提示して、生徒から意見を引き出す感じですね。生徒たちが自主的に発言し、収束までいけたのには驚きました。今日の体験を生かして、ツアーを成功に導きたいですね」と、生徒の成長に驚きながら確かな手応えを感じていた。

起業家教育は徐々にではあるが、着実に定着してきている。開業率、起業への関心度の低さが顕著な日本を、低迷が続く日本の経済を若い力が変革する。きっかけを与えられさえすれば短時間でも大きく成長する生徒たちの姿を見て、未来へのひと筋の光を感じた潜入取材となった。

また中小機構が主催する「起業家教育事業」では、「起業家教育講師等派遣支援」を行っている。起業実績のある協力事業者(起業家)から、起業に必要とされるマインドや資質、実体験などを聞く機会が提供されている。教育関係者はぜひ一度チェックしてみたい。



プレストカードは田中氏がかつて所属していた会社で開発。ゲーム感覚でアイデアが出せる優れたものだ



プレストの楽しさと、田中彬士氏の明るいキャラで終始和やかな授業に

坂井高校の生徒が企画したツアー



出典:ふるさとチョイス
<https://www.furusato-tax.jp/product/detail/18210/5593885>

※あくまで参考であり、この内容に限定したものではありません



05. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶ 成果報告会

■ R4年度 成果報告会の紹介

2023年2月25日 @NEXsTokyo

独立行政法人中小企業基盤整備機構（以下、中小機構）は、2月25日東京丸の内にあるNexs Tokyoにて、『令和4年度 起業家教育事業 交流会』を実施した。

この取り組みは、中小機構が全国の高校生を対象に行っている“起業家教育プログラム”の支援を受けるなどした学生たちを招き、自身が作成したビジネスプランについて外部専門家からアドバイスを受けたり、他校の起業家教育に取り組む生徒との交流を行う場を提供するというもの。当日は、起業家教育プログラム支援校3校（北海道留辺蘂高等学校、青森山田高等学校、芝浦工大付属中学高等学校）、出前授業実施支援校5校（神戸星城高等学校、静岡県立伊豆総合高等学校、山形県立酒田光陵高等学校、静岡県立島田商業高等学校、兵庫県立長田商業高等学校）、また日本政策金融公庫主催高校生ビジネス・プラングランプリからゲスト参加校1校（洗足学園高等学校）と全国各地から9校19名の生徒たちが参加した。



出典:週刊アスキー<起業を目指す中高生たちにセンパイ起業家から貴重なアドバイス！ 中小機構『起業家プログラム 生徒報告会・交流会』レポート>より抜粋
<https://weekly.ascii.jp/elem/000/004/128/4128130/>

今日のプログラム

01.自己紹介各校)	～	14:00
02.グループワーク	～	14:30
03.起業家パネル対談	～	15:30
.グループディスカッション		
.起業家質疑応答		
～～ 休憩 ～～		
04.ワークショップ	～	16:30
『Catlog』のサービス拡大案を考える		
05.チーム発表&講評	～	16:50
06.アンケート記入	～	17:00

Be a Great Small.
中小機構

※R5年度 成果報告会は2024年2月にCIC Tokyoで開催予定です

R4年度成果報告会の
ダイジェスト動画はこちら→





05. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 成果報告会

■ R4年度 成果報告会の紹介

2023年2月25日 @NEXsTokyo

出典:週刊アスキー<起業を目指す中高生たちにセンパイ起業家から貴重なアドバイス! 中小機構『起業家プログラム 生徒報告会・交流会』レポート>より抜粋

<https://weekly.ascii.jp/elem/000/004/128/4128130/>

ブレインストーミングなどを実践的なスタイルで学ぶ 実際の起業家たちによる特別講座も実施

各校生徒の自己紹介に続いて、実際にスタートアップに成功した起業家を特別講師として招いてのパネルディスカッションが行われた。人工衛星によるサービスを提供するアクセルスペースの中村友哉氏、飼い猫の行動を見守る「Catlog」を提供するRABOの伊豫愉芸子氏の両名が、テーマごとにトークを展開していった。

創業した当初は宇宙ビジネスが未知数で、かつ営業経験もなく苦勞をしたと振り返った中村氏。ウェザーニューズ社から気象衛星の開発受託を受けたことによりビジネスが軌道に乗り、その後は自社の衛星によって取得した画像データを販売するサービスへと推移していったことを説明。創業には「自分が世に出したモノにお客様が価値を見出して使ってくれたという喜び」があると語った。



株式会社アクセルスペース 代表取締役の中村友哉氏。大学生時代に人工衛星の開発に関わったことがきっかけで、民間企業の人工衛星利用を目的として2008年に会社を設立。現在では自社人工衛星による画像データ販売や、超小型人工衛星でのミッションの提供を基幹ビジネスとしている。



05. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 成果報告会

■ R4年度 成果報告会の紹介

2023年2月25日 @NEXsTokyo

出典:週刊アスキー<起業を目指す中高生たちにセンパイ起業家から貴重なアドバイス! 中小機構『起業家プログラム 生徒報告会・交流会』レポート>より抜粋
<https://weekly.ascii.jp/elem/000/004/128/4128130/>

大学時代に野生動物のバイオロギング（ITによる生態観察）を専攻したという伊豫氏は、卒業後に就職した企業で学んだプロダクト開発のノウハウ、そしてなにより猫への愛情があって起業を決定。設立当初は「いいプロダクトを作る」ことに注力しすぎ市場を作ることをおろそかにしていたと振り返りつつも、獣医が気づかなかった病気を早期発見できたなど、猫と飼い主のより深いサポートができたことが喜びだと語った。

参加した学生たちに向けては「成功した起業家の多くは“自分は運がいい”と語るが、それは到来したチャンスを逃さずに実現できているから。考えの軸を持ちつつも、フレキシブルに考えていくことが大事」（中村氏）、「まずは日々目の前にあることに一生懸命になる。そして何者になりたいのかを考える。自分の知的好奇心がグッと動くモノを見つけてください」（伊豫氏）とメッセージ贈った。



株式会社RABO 代表取締役社長の伊豫倫芸子氏。同社が提供する「Catlog」は首輪に取り付けたデータロガーにより、飼い猫のコンディションを24時どこでも把握できるというもの。今後は収集したデータを活かしたビジネスも手掛けたいという。



05. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 成果報告会

■ R4年度 成果報告会の紹介

2023年2月25日 @NEXsTokyo

出典:週刊アスキー<起業を目指す中高生たちにセンパイ起業家から貴重なアドバイス！ 中小機構『起業家プログラム 生徒報告会・交流会』レポート>より抜粋

<https://weekly.ascii.jp/elem/000/004/128/4128130/>

また会の中では、1つのテーマについてテーブルごとで話し合うグループディスカッションや、アイデアを広げていくためのブレインストーミングといった、スタートアップ企業では欠かせない手法のレクチャーも行われた。今回登壇したROBOの「Catlog」をテーマに高校生が考えるビジネス拡大案を考えるというブレインストーミングを実施。まずは発表することを恥ずかしがらないというプレストのレクチャーを受けた。プレストには伊豫氏も参加し、各チームから様々なアイデアが出てきた。活発に積極的に参加する生徒たちの姿は、未来の起業家を想像させるに十分なものだった。

参加した生徒からは、起業家教育に取り組む全国の生徒と交流や起業家の考え方をこれからの活動の参考にしたいという声が多く聞かれた。また交流会に参加したことで起業・創業に対する関心が大きく向上する結果となった。

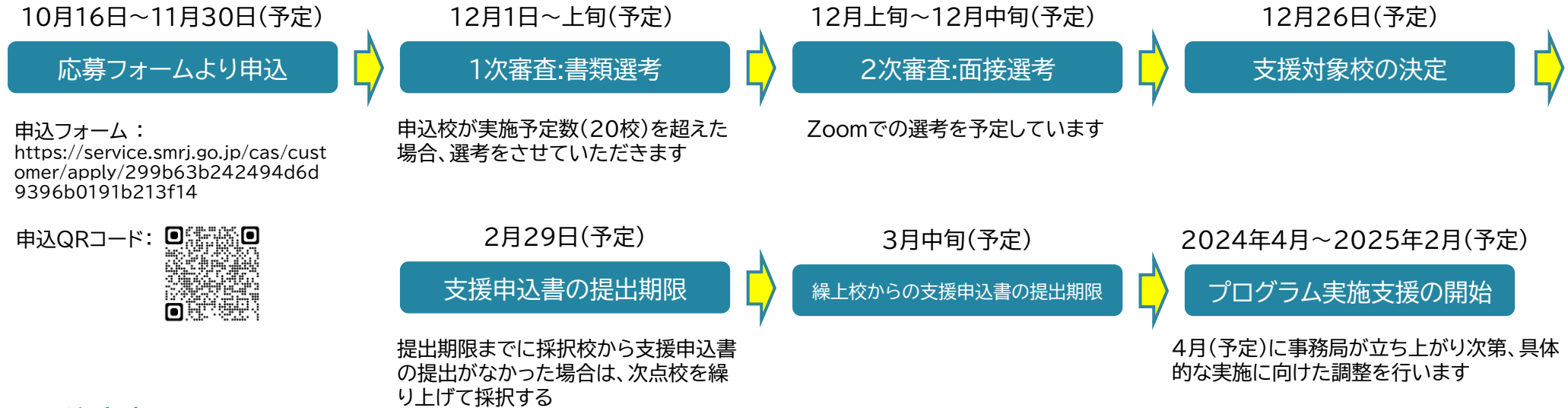
各校から教員も参加していたが、他校との交流や高校生同士でワークショップを実施する機会は少なく、参加した生徒の将来に良い影響があったのではとのコメントがあった。

起業家教育プログラムは、将来的に創業を志す人材の育成を目指す取り組みだが、彼らのすべてが創業するまでには至らなくとも、彼らのなかに育った”起業家マインド”は、将来きっと大きな支えとなってくれるだろう。





06. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 申込の流れ



■ 注意事項

- ① 起業家教育プログラム実施支援の利用(教員・学生の方の相談対応に関する費用・中小機構が派遣する講師・協力事業者(起業家)に支払う謝金等)については費用は掛かりません。ただし、個別相談や意見交換会・ワークショップ・フィールドワーク等に参加いただく際に必要となるインターネット通信費・交通費等については自己負担となります。
- ② 起業家教育プログラム実施支援については、今年度の実施予定件数は20件であり、申込が支援対象件数を超過した場合、応募内容を審査の上実施対象校を決定させていただきます。(審査については、①実施時間数は適切か(10時間以上)、②志望動機・申込動機、③学校の責任者・他の教員等の理解・コンセンサスを得られているか、④事業の主旨や進め方を理解しているか等の項目から判断をさせていただきます。)
- ③ その他、申込みにあたってご不明な点、プログラム内容等についてご相談がありましたら次葉の連絡先までお気軽にお問い合わせください。
- ④ 本事業の予算成立は、2024年3月前後を予定しています。本事業の実施に伴う予算が正式に確保できない場合は、実施できない可能性があることをご了承ください。



06. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 申込にあたって

■ お問い合わせ先

- その他、申込みにあたってご不明な点、ご相談は下記の連絡先までお気軽にお問い合わせください。

独立行政法人 中小企業基盤整備機構
創業・ベンチャー支援部
創業・ベンチャー支援企画課

〒105-8453
東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
Tel : 03-5470-1645
Fax : 03-3433-2576
Mail : kigyorider@smrj.go.jp



07. 起業家教育プログラム実施支援 ▶▶▶ 過去の参加校一覧

■ 【参考】（令和4年度）参加校一覧

No.	実施校名	都道府県
1	青森山田高等学校	青森県
2	芝浦工業大学附属中学高等学校	東京都
3	福井県立坂井高等学校	福井県
4	北海道留辺蘂高等学校	北海道

■ 【参考】（令和5年度）参加校一覧

No.	実施校名	都道府県
1	桜花学園高等学校	愛知県
2	北九州市立高等学校	福岡県
3	熊本マリスト学園中学校高等学校	熊本県
4	佐野日本大学高等学校	栃木県
5	静岡北高等学校	静岡県
6	奈良県立商業高等学校	奈良県
7	福井県立鯖江高等学校	福井県
8	福島県立福島商業高等学校	福島県
9	三重県立四日市商業高等学校	三重県
10	宮城県農業高等学校	宮城県